

琉球新報 2012年 5月25日 (金)

水問題についての議論を深めた高校生・太平洋島サミットに参加している高校生ら＝24日午後、宮古島市中央公民館



【宮古島】高校生太平洋・島サミット2日目は24日、宮古島市中央公民館で高校生によるグループディスカッションなどが行われた。高校生たちは、各国、地域の水に関する課題を書き出し、水資源の管理や国際的な協力体制などについて話し合った。(2面に関連)

高校生太平洋島サミット

# 水問題で意見交換

## 宮古総実生が研究発表

高校生らは各国首脳への提言をまとめ、25日午後16時に発表する。

香川県の小豆島高校から参加している根本明佳さん(16)は「世界の環境問題を知ることができて、とても楽しく良い経験になった。地元に戻ってからも生活の中で生かしたい」と話した。

同日午前には、宮古総合実業高校(下地盛雄校長)環境班の3人が、英語で地下

水保全の研究を発表した。ソバを栽培することで土中の窒素を固定化するという研究に、会場からは「南太平洋でも栽培できるのか」といった質問が出た。

発表した同高2年の比屋根舞さん(17)は「発表自体は慣れているが、英語では初めてなので緊張した。環

境問題は世界共通の問題なので、他の国の人も一緒に取り組みたい」と話した。また同日、パプアニューギニアのテレビ局が日本の環境技術やサミットの様子を番組にするために、同市の下地敏彦市長へのインタビューや島内の環境関連施設の取材をした。